

# 家庭でできる防災対策

日頃からの災害に対する備えが大切です。

災害時には「自分の命は自分で守る」という心構えが大切です。

## 風水害に備えて

- 日頃から気象情報について関心を持っておきましょう。
- 家の土地の周辺の状況を把握しておきましょう。
- 非常持ち出し品の準備・点検をしておきましょう。
- 家庭で防災について話し合う機会を設けましょう。
- その他にもこのようなことに気を付けましょう。

### (1) 日頃から気象情報について関心を持っておきましょう。

	種類	発表基準
注意報	大雨・洪水・強風・波浪・風雪・高潮・大雪 など	災害が起こるおそれがあると予想される場合
警報	大雨・洪水・暴風・波浪・暴風雪・高潮・大雪 など	重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合

※台風接近時には台風情報に十分注意して下さい。

### (2) 家の土地の周辺の状況を把握しておきましょう。

次のような土地では細心の注意をする必要があります。

海岸地帯	満潮時の高潮には特に注意する必要があります。
山間部	大雨による土砂崩れ等に注意する必要があります。
河川付近	大雨による河川の増水、決壊に注意する必要があります。

※その他、扇状地・山岳地帯・ゼロメートル地帯(平均満潮面以下の土地)・河川敷は注意が必要です。

### (3) 非常持ち出し品の準備・点検をしておきましょう。

非常持ち出し品には、次のような物があります。





げんきん  
現金



ライター



ナイフ



ラジオ



でんち  
電池



かんき  
缶切り



にゅう  
ほ乳びん等



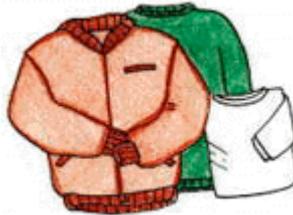
インスタントラーメン



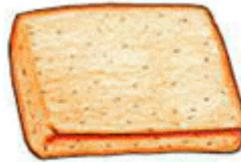
しょくひん  
食品



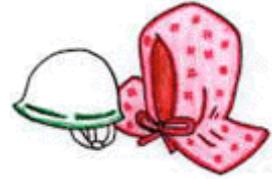
きゅうきゅうばこ  
救急箱



いるい  
衣類



もうふ  
毛布



ぼうさい  
ヘルメット・防災ずきん



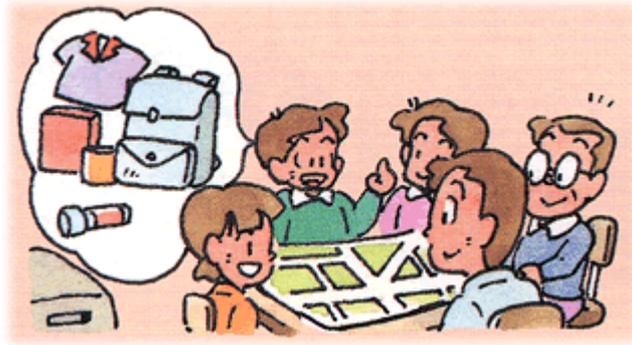
パスポート



ざいりゅう  
在留カード

(4) 家庭で防災について話し合う機会を設けましょう。

いざというとき家族が慌てず行動できるように、普段から家族で次のようなことを話し合っておきましょう。



1. 家の中でどこが一番安全か。
2. 救急薬品や火気の点検はしたか。
3. こどもやお年寄りはどうやって避難するか。
4. 避難場所はどこか。
5. どの道を通って避難するか。
6. 避難のときは、誰が何を持っていくか。
7. 非常持ち出し品はどこに置いているか。
8. 昼間など、家族がそろっていないときは、それぞれどこに避難したり連絡したりするか。

(5) その他に以下のことにも気を付けましょう。

- 市町村長の出す避難勧告・指示には速やかに従うことが大切です。
- 台風接近時には極力外出を控えることが大切です。
- 沿岸部の方は、特に高潮についても注意が必要です。
- 家とその周囲を注意深く点検し、落下や転倒の危険を取り除いておきましょう。